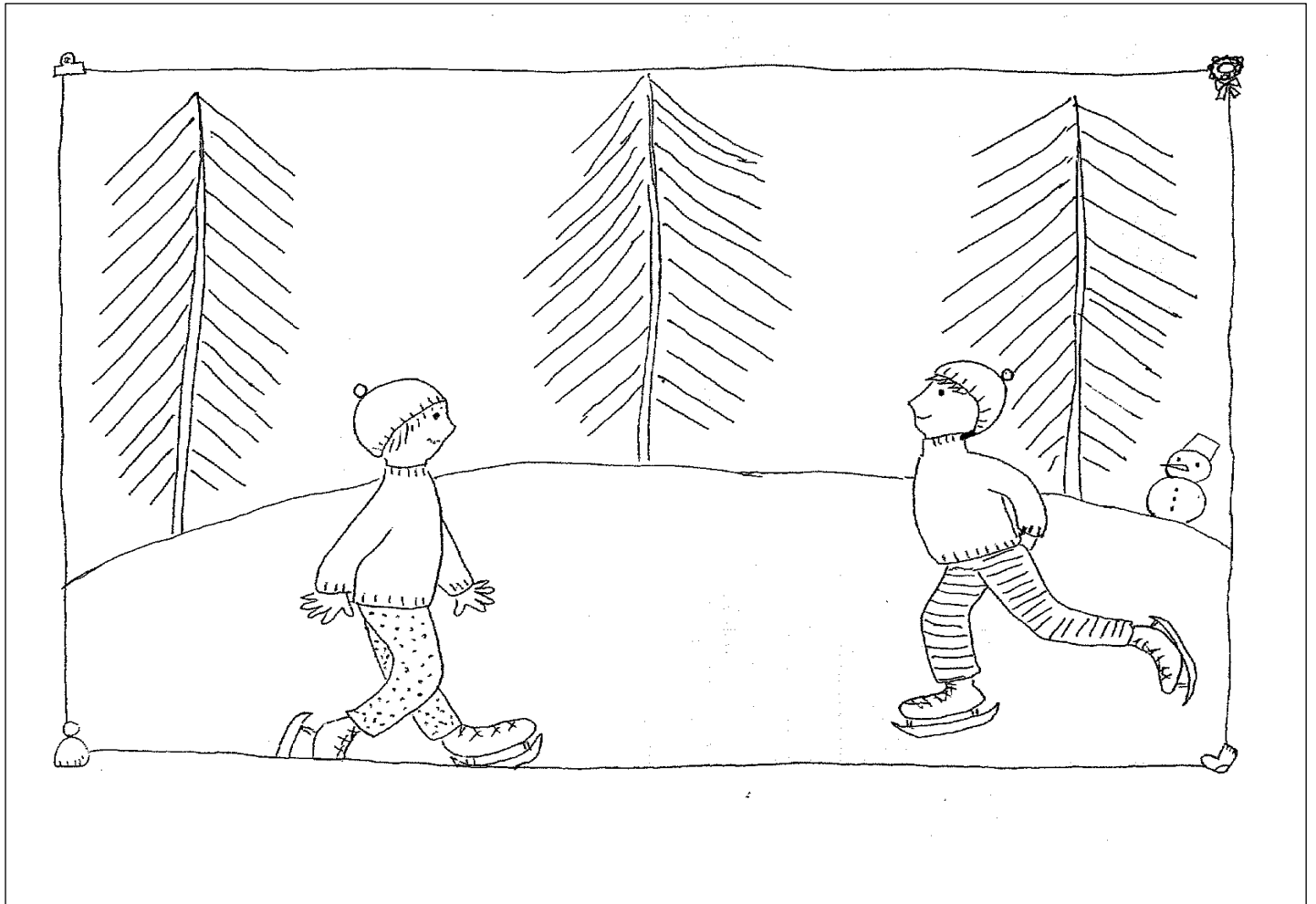




楽らく通信



【目次】

1 ☆ 表紙 ☆

2 らく福祉会法人理念をつくりました

3-5 特集 新型コロナ流行による生活の変化

6 スペース楽活動報告

7 グループホーム活動報告

8 スペース楽・2 活動報告

らく福祉会賛助会員／編集後記



【発行】

●スペース楽 小金井市東町 4-10-14 TEL : 042-388-6456 FAX : 042-316-3664

E-MAIL : space-raku@mx4.alpha-web.ne.jp

●スペース楽・2 小金井市本町 1-6-11 TEL/FAX : 042-388-7887 E-MAIL : 1997raku.2@jcom.zaq.ne.jp

●グループホームこがねい・ちぐら TEL/FAX : 042-387-8468

●グループホームらく TEL/FAX : 042-383-6181

●らく福祉会 公式ホームページ <http://rakufukushikai8.wixsite.com/koganeishi>



福祉会

《らく福社会法人理念をつくりました》



福社会

障がいのある人も そうでない人も ともに手を携えて暮らせる街づくりに貢献します

～この街が 誰にでもやさしい街で ありますように～



私たちは 一人ひとりの想いに寄り添い

その人らしく生活できるようにともに考えチャレンジすることを支えます。



私たちは 地域の中で、人と人をつなげ

障がいがあっても安心して暮らせる街づくりに貢献します。



私たちは 精神保健福祉の向上を目指し

広く視野をもってその職責を果たします。

ご報告が遅くなりましたが、昨年度末にらく福社会では法人理念を作成しました。

この理念を作成するにあたりまして、全ての常勤職員に支援において大切にしていることはどんなことか、地域で私たちが果たす役割とはどのようなことか等のアンケートを取り、そのアンケートを基にして私たちの思いを明文化したのがこの法人理念です。

また、今年度に入ってから職員でグループミーティングを開催し、改めて法人理念のそれぞれの項目についてイメージすること、実際に業務で取り組んでいること、これから取り組みたいことなどについて話し合い、理念の意味について深める機会を設けました。

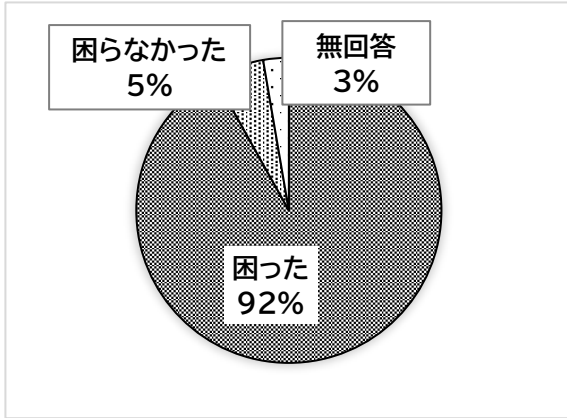
らく福社会では就労継続支援B型、グループホーム、地域活動支援センターⅡ型、相談支援事業をそれぞれ1か所ずつ運営しています。事業ごとに利用者の方々の利用目的やそれに伴うメインのニーズが異なることで、支援者に求められるスキルも異なる部分があるのですが、根本的な視点、姿勢、大切にしていきたいことは一緒だということを理念の作成過程、その後のミーティングで再認識することが出来ました。

日々の支援の中で迷ったり悩んだりした時、また、このコロナ禍においてニーズに応えることがままならずもどかしい思いをしている時、この理念に立ち返り、私たちがすべきことに前向きに取り組んで行けたらと思います。

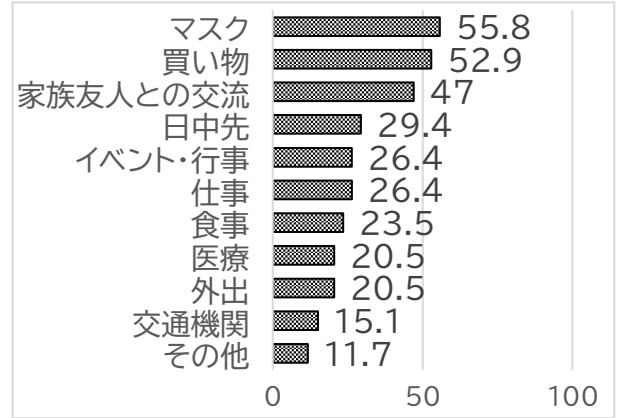
(らく福社会相談支援事業所／秋山)

《特集》 新型コロナ流行による生活の変化

1. コロナが流行し自粛生活が続く中、みなさまの暮らしで困ったことはありましたか。



2. 困った方に質問です。どんなことに困りましたか。(複数回答可)



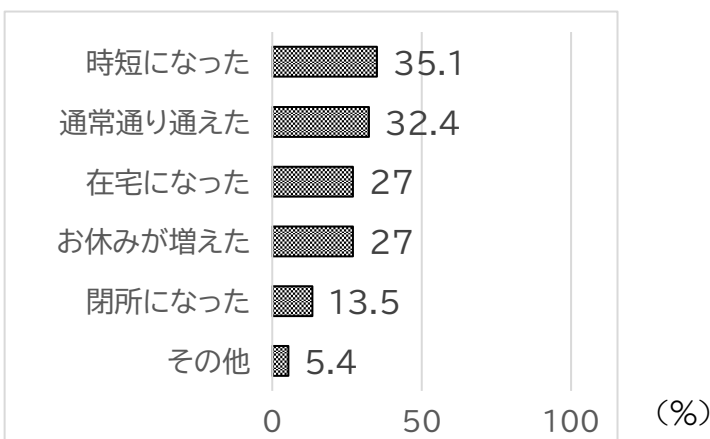
(%)

《具体的に困ったこと》

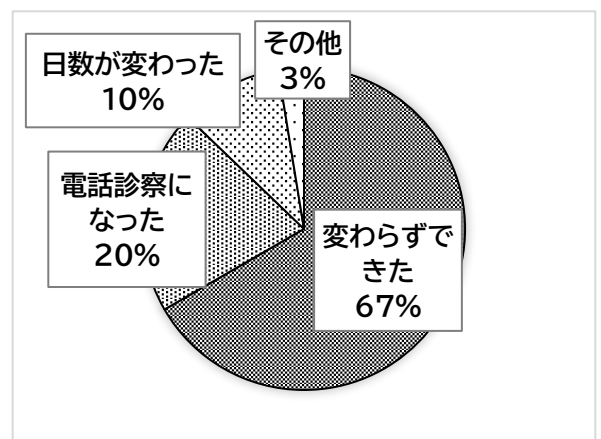
マスク	外で、セキとかくしゃみとか、気を遣い、神経質になること/マスクを忘れないようにする/トイレットペーパー、マスク焦ってしまい、不安で並んでしまった
買い物	お金の出費が多くなってしまった(食費、生活費)/買い物がちょっと大変
家族友人との交流	集合住宅なので皆一日中家にいたので落ち着かなく自分のペースが崩れた/ Wi-Fi の環境がないため Zoom や LINE ビデオが使えず、オンラインの交流(歌会など)ができなかった
そのほかに困ったこと	私は家族がいないので施設の閉所や時短はかなりおおきなことでした。家にいても話し相手がないし、とても不安な気持ちになりました/楽しみにしていたお祭りなどイベント・行事がなくなって残念/一般就労の求人の量の減少・質の低下について/ラーメン屋さんにいけなくなった/外出先が早く閉まったり休んだりした/外出や買い物に CoCo バスを使用していますが「三密」となり、乗客で、マスク厳守で書いてなくても、マスクしないで、セキ払いをしている人がいたので、とても不安でした/人を見ればコロナと思え的な風潮が少し悲しくなる

…など

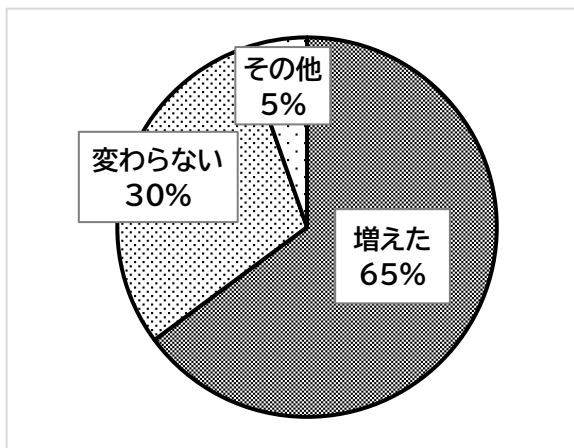
3. 日中の行き先が変わらず通うことができましたか。(複数回答可)



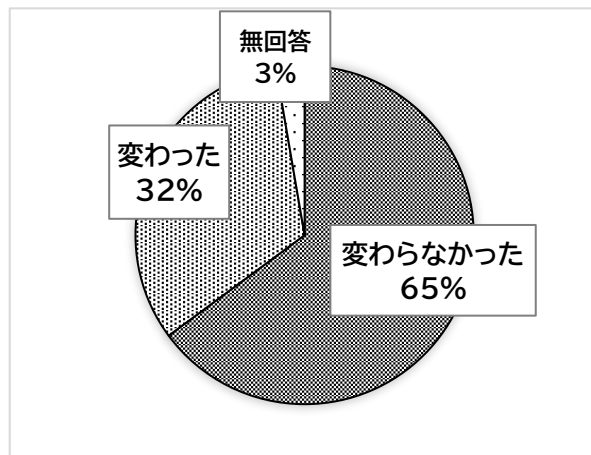
4. 病院の診察は変わらずできましたか。



5. 家で過ごす時間は増えましたか。



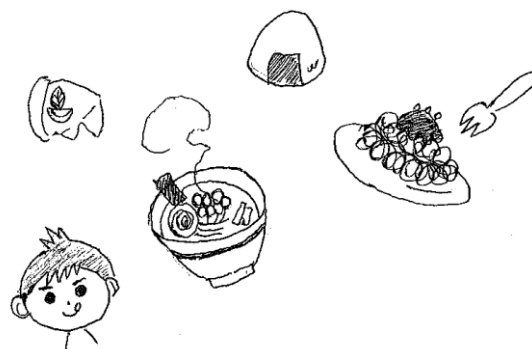
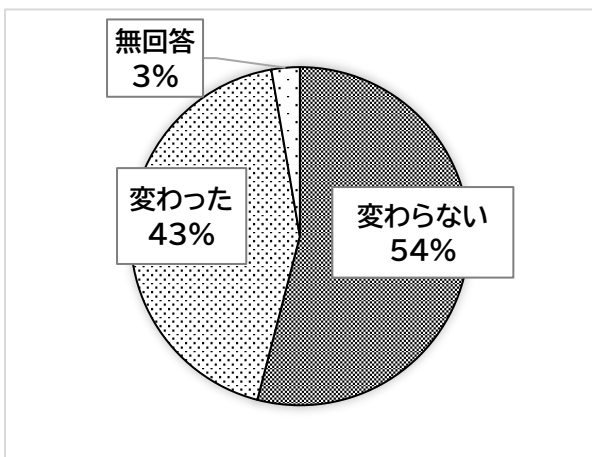
6. 趣味や娯楽の楽しみは変わりましたか。



《どのような趣味や娯楽をして過ごしましたか?》

- 読書、音楽を聴く。体操をする
 - 友達と会ったり、カラオケに一人で行った
 - 短歌をより多く SNS に上げた 写真を SNS に上げた
 - コロナ関連の動画がたくさん配信されていたので見まくった
 - お庭で DIY をしたり、パソコンでゲームをしたり、家の中で家族と卓球をした
 - TV (E テレの手話のニュース、福祉ネットワーク) を見る
 - YouTube などを見て楽しんだ
 - TV、ウタエット (防音のものを買った)
 - お菓子づくり、ハンドメイド作り
- …など

7. 食生活は変わりましたか。



《変わったという方へ、どのような変化がありましたか》

- コンビニでの買い物が増えた。割高になった
 - ストレスで間食が増えた
 - 健康に良い物を食べるように心がけた
 - 冷凍食品を食べる機会が増えた。日持ちする食品をまとめて買うのが習慣になった
 - 遠くまで買い物に行かないで、近くで買えるもので作るようになった。野菜、鮮魚・鮮肉をとることが減った
 - 時間が早くなった (朝と夕食)。朝食 6AM、夕食は 6 PM です。薬が正しく飲めた
 - 時間が早くなった
 - 3食、食べるようになった
 - 外食が少し増えた
- …など

《自由記入欄紹介》

～利用している事業所の対応について、良かったこと、悪かったこと、これからしてほしい対応～

- これからも休まず続いてほしいです。我々は行くところがありません
- コロナ中、在宅作業などがあって対応が良かった。スタッフさんの人数が減ってしまった。気がねなく話しかけることがなんとなく心苦しい
- マスク着用になった。時短で4時に閉所になった
- スペース楽・2では、手洗い、消毒してくれて、アクリル板の仕切りもして清潔にしてくれたので安心しました
- 作業の時間が短くなった。今度それに慣れてしまった
- 障害者の私が行くところなくなると体も心もかなり悪化してしまいます。そんな中も開所してくれて日々変わる東京都からの指示やメンバーの対応に追われながら仕事をしてくださった事に心から感謝いたします
- 展示会の参加がなくなった。スペース楽・2からの電話と手紙（毎月1回）の対応がよかった。出席者が減った（淋しいね）。メンバー金曜日の人々、1人か3人となった。スタッフの方が多いこともあった
- マスクの配布 …など

～コロナが収束したらやりたいこと～

- ラーメン屋さんに行きたいです
- クッキー販売に行きたい
- レクに行きたいです
- 電車で近場の花畑に行きたい
- 友人や知人とお茶をしたり音楽を聴きたい
- 工賃収入を得たい。マスクを外した生活に戻りたい
- コロナを気にしないで生活したい。自由に生活すること
- おしゃれして、写真撮りたいです。たまには外食したいです
- 思い切り一人カラオケ！！友人とお茶！！旅行！！田舎に里帰り！！
- 仕事に就きたい。カラオケに行きたい。レクに行きたい。マスクを外して普通に生活したい。マスクのせいで皮膚病になったりしたので！！
- 日帰り旅行や宿泊旅行、その他のイベントも開催できたらと思います …など

アンケートのまとめ

「《特集》新型コロナ流行による生活の変化」のアンケートはらく福社会（スペース楽、スペース楽・2、グループホームこがねい・らく・ちぐら・ちぐら2）を利用されている皆様のご協力のもとに実施したアンケートの集計結果です。このコロナ禍で「困った」と回答された方は92%と多くいらっしゃいました。「マスク」に関しては品切れ、長時間の着用、夏の過ごし方、周りの人への気遣いなど……大変なこと、心配なことが増えたと思います。「日中活動先の通い方」では通常通り通えた以外にもお休み、在宅仕事が増えた、時短になったと利用の仕方に変化がみられました。3密を避けて、でもできる限り日中の居場所があるようにと事業所毎にも工夫もみられました。「病院の診察は変わらずできましたか」ではほとんどの方が主治医の先生と連絡を取り続けられたようです。コロナ禍で安易に病院に行けない状況もありましたが、欠かせない診察が様々な形で続けられたことにほっとする気持ちです。

新型コロナ感染への注意はまだまだ続きそうです。このアンケートを通してみんなの思いを共有できたことが、この辛抱の時期を乗り越える糧の1つになればいいなと思います。

《スペース楽活動報告》



新型コロナとスペース楽

今年初めより、深刻な状況になったコロナウイルスについてスペース楽への影響をお伝えできればと思います。3月より今では世の当たり前となった検温、アルコール消毒、手洗いの徹底、マスクの着用を実施しました。また、事業所内の密を避けるために利用者の利用時間、作業時間のシフト化を実施しました。丸一日利用の方には大変申し訳ありませんが原則、半日利用に協力していただきました（昼食での感染を避ける目的もありました）。職員間で何度も何度も協議を重ねて考えた結果です。感染を防ぎながら開所を続けるための苦肉の選択でした。感染予防用品については幸いにも製菓作業でのストックのマスクやアルコールがあったためまわすことができました。

年度明けて4月「緊急事態宣言が発令」、近隣でも閉所し在宅のみのサービスに切り替える事業所も出てきました。利用者、職員の安全を考え、スペース楽でも屋内作業は休止し、在宅作業と屋外作業のみに切り替える選択肢もありました。ただそれでいいのか？作業を行うために利用する方、通所をリズムとしている方、交流を目的としている方等、スペース楽は、様々な方が利用しています。それらのニーズを考え、閉所は考えず在宅作業（主に製菓作業に関わる事）を混ぜて開所を継続しました。密を避けながら作業を行うことについては今年度より念願の梶野公園トイレ清掃の契約を行い、栗山公園のトイレ清掃と合わせて作業できるようになった半面、通常4月末に契約している市内公園清掃、砂場清掃が6月末までコロナの関係で契約できなかったことは予想外でした。B型事業所として工賃収入が減ってしまうことと、何より密を避けるために効果的な屋外作業が4～6月までの丸3か月できなかったことはその分違う作業や在宅作業等を考えるうえでとても負担でしたし、外作業をメインで行っている方にもストレスを与えてしまう結果でした。

5月の終わり緊急事態宣言解除後、7月より公園清掃契約作業開始。新しい生活様式は「とにかく暑い！！マスク暑い。フェイスシールドも暑い。エアコンつけて換気暑い」。毎年この時期より、熱中症対策を行ってきましたが、半日利用や在宅作業をしていた方が突然炎天下、感染予防のマスクをして外作業に行くのですから正直不安と恐怖でした。なるべくマスクを外してできるようにと試行錯誤した時期でした。

10月中頃、お陰様で製菓や内職のかりんとうの発注も増え始め、公園の落葉も徐々に色づき始め、作業がいつもの年ようになってきました。そこで段階的に丸一日利用の方を増やしていきました。そして、11月。一番の繁忙期。密を避けているために人手不足は深刻です。作業をこなすために閉所時間まで作業をしている毎日です。

この原稿を書いている11月の終わりの3連休。コロナの感染者が過去最高。コロナとの付き合いはまだまだ続きそうな感じです。ワイワイガヤガヤのスペース楽に戻るにはまだまだ先のようにです。今年度はスペース楽のイベントはほぼ中止にしました。また、ミーティングや学習会が行っていませんが、今後は全体で話し合う機会を設けたいと思います。公からの調査は例年にも増してきますが、運営と工賃に伴う事ばかりで利用者の生活や影響等については一切ありません。自分たちの役割は工賃だけではなく、その方が自分らしく生活していけるようにすることだと思っています。こんな時だからこそ真摯に考えていければと思います。いつかコロナが終わってみんなで「おいしいねー」と食事や旅行ができることを願って。楽しいスペースが戻りますように。

（スペース楽／松村）

《グループホーム活動報告》

新型コロナとグループホーム

今年はグループホームでも新型コロナウイルスの対応に追われる日々でした。

グループホームでは、利用者さんに交流室へ「顔出し」という形で、お話をする機会を日々設けさせて頂いています。10月現在では「居室で体温を測ってもらう」「マスクを着用する」「入室時にアルコール除菌をしてもらう」というルールを定めた上で「顔出し」を再開しています。新型コロナウイルスが流行りだした当初は玄関口のみでの対応にし、感染の可能性があった時には2週間ほど電話対応のみにさせて頂くなど、対応に追われる慌ただしきひとときもありました。新型コロナウイルスの感染の怖さももちろんありますが、精神の病を抱える利用者さんには普段とは違う環境になることへの不安やストレスや生活リズムの変化などから、体調を崩されることの心配もあり、どのような形で運営を続けるのがよいかを試行錯誤する日々です。現在は「顔出し」を再開したため、交流室では対面するテーブルを透明のシートで分断し、利用者さんの退室後には室内のアルコール除菌を毎回行うことで感染防止に努めています。

グループホームの行事については今年はずべて中止とし、週に1回開催していた夕食会も、現在は注文したお弁当をお渡しするという形に変更して取り組んでいます。今後も新型コロナだけでなく、様々な感染症も含めた予防や対応に努めていきたいと思えます。

・グループホーム卒業に向けて

さて、コロナ禍ではありますが、グループホームでは卒業を迎える方の一人暮らしに向けて物件探しに取り組んでいます。地域で物件を探す支援をしてくださるサポート事業や、懇意にさせて頂いている不動産会社様をお願いをして賃貸の紹介を頂いてはいるものの、家探しには苦戦を強いられることがあります。紹介して頂いた物件と利用者さんが希望する地域、支払える家賃等のすり合わせが上手くいかないことや、不動産会社に伺った時に「精神障害」があることを伝えると「紹介が難しいですね……」といわれてしまうことがあるからです。どう伝えたら、「精神障害」という枠だけではなく、ご本人自身を見てもらえるのかと悩ましいところです。

また物件を探すにあたり、利用者さんが希望する時は小金井市内の自立相談サポートセンター様にご協力をお願いしています。ただ物件探しのサポートをして下さる事業については自治体によって取り組みが様々で、グループホームから遠い場所での物件探しにどう取り組むか……という課題もあります。

コロナ禍ではありますが、精神障害の理解をして下さる不動産会社様が新たに見つかり、アドバイスを頂きながら物件探しを進めているところです。

物件探しの課題は今後も続いていくことなので、グループホームの職員も利用者さんの卒業にどのように力になれるのか、支援の輪を増やしていくことが必要になってきていると考えているところです。

(グループホームらく/伊東)





温故知新

2020年4月、新型コロナウイルス感染症の流行によって東京都に緊急事態宣言が発令されて以来、スペース楽・2の運営の在り方は大きく変わりました。宣言が解除されるまでの間、すべてのプログラムは休止され利用されている皆さんには不要不急の外出を避けてなるべく自宅で過ごしていただくようお願いする手紙を送らせていただきました。初めての経験で不安や心配を一人で抱えてしまわないように、1日の内で2時間だけ、おしゃべりをできる時間を作ったり、お顔を見られない方には電話で連絡をとったり、出来る限りの工夫をして今日まで過ごし、感染予防の工夫を出来る限り行いながら少しずつ開所の時間を増やし、手作業とOTもの作り、抹茶の会などの余暇活動を再開できるまでになりました。

いつも通り物を作って販売の活動をして、レクリエーションで少し遠くまでお出かけをして、メンバーで集まって誕生日を祝う食事会をするという当たり前のことが出来ないことが、地域活動支援センターの役割は何か考えなおすきっかけになった時間でもありました。

ある日の会話に、ここはどうして「スペース楽」なんだろうね。「楽」の読み方は「らく」とか「たのしい」とかだよねー。というものがありません。そのとき、この場所の創設者が「らく」で「たのしい」ところに居られたらいいじゃないか、と言った言葉を思い出しました。その通りの場所を四半世紀作り続けた富澤は今年の9月から週に2日しか来なくなりましたが、こんな時代に生きるからこそ、その想いを継承し新しい日常を作っていこうと思ったのでした。

(スペース楽・2/鮫島)

～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。

『スペース楽開所 25周年誌』のお知らせ

2020年はスペース楽が開所してから25周年ということで資料集のような記念誌を出すことになりました。26年目になる2021年、1月21日(1995年にスペース楽が仮開所した日)発行の予定です。

新型コロナ禍の中、通常の業務では出来なかった古い資料を発掘して『楽らく通信』の初期のものを復元したり、つどいの会の会報を整理したりして作成しました。懐かしい記事が満載です。

～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。～*。



らく福社会 公式ホームページ

らく福社会賛助会員

らく福社会賛助会員のみなさまには、温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い致します。



らく福社会

検索

ブログや情報欄もあります。是非ご覧ください。



らく福社会賛助会員 年会費 一口2,000円

郵便振替 口座番号：00160-5-171403

加入者名：らく福社会



編集後記

- ・コロナ対策で風邪もひかず、元気です。(Y.E)
- ・加筆修正が目まぐるしかったです。(Y.I)
- ・レクがなく、僕の腕の見せ所がないこの頃です。(T.Y)